

數二列に別れて相對し並ぶ。歌にあはせて、互ひ違ひに出たり、引つこんだりして、相手を遊びその人が引つぱりつこなする。中々勝負のつかぬ時はじやんけんできめる。その歌は

勝つてうれしい花いちもんめ

負けてくやしい花いちもんめ

ふるさとまとめて花いちもんめ

〇〇さんとりたいた花いちもんめ

他にも種々違つた言葉もあるでせうが一般には大抵この言葉を用ひてゐる。次第に相手をとられて人数が少くなると、その方は負けになるのである。「〇〇さんしつかり〇〇さんしつかり」と應援が又一段とこの遊びを引立てる。

遊 戲

古 澤 靜 子

四月の遊戲室に於きましては、先づ合圖に依る起立、着席。圓形や縱横の列を作る。樂器や先生の手拍子に合せて遊戲をする。或は遊戲室へ出入に際しての規律に至るまで、凡て「お友達と揃つて」の觀念のもとに行動をおこし度いと思ひます。

部分的な個々の訓練よりも、團體行動を起し得る爲の、基礎的訓練を行ふ事を主眼點に致し度いと思ひます。

何しろ入園後間もない頃でありますから、その材料や計畫に於きましては、出来るだけ簡單なものにとゞめ、幼兒の遊びの中、主要素をなしてゐる

〇歩くこと
〇走ること
〇とぶこと
の三つの基本的動作の取扱ひより

二、三の平易な遊戲へと發展の徑路をとつて見ることに致しました。

〇歩くこと

一體正常歩には如何なる要素が必要であるかと申しますと、それは最初、踏出される脚、即ち振動脚の力がよく抜けてゐること。足が最初地面に觸れる際、膝が伸びてゐること、足尖が概ね歩く方向を向いてゐること、體が眞直に保たれてゐること、臂が肩から自然に振れること、等と云ふことが出来ませう。

歩行は現代の人類にとつて最も自然的な運動で、全く生得的な運動でありますから、特に練習の必要など無いわけでありすが、不自然な生活によつてその歩態も歪められ、或は歩態が歪められるが故に、生活の一部に不自然を及ぼす爲、幼兒の中から、特に歩行訓練の必要を生じるものであります。

然してその訓練は、單に歩、そのものゝ理を尊重する事は勿論であります。入園當時の不完全な音樂的訓練と相俟つて、ピアノオルガン手拍子或はその他の諸樂器に依り、遊戲として興味多く楽しく取扱ひ度いと存じます。

では、二、三の例を擧げてみませう。

お室の散歩 曲は行進曲を用ひます。

一列に並び、或は二人づゝ手をつないで散歩に出かけませう。

お室の隅から隅まで眞四角に歩いたり、まん丸いお月様が出来るまで圓く圓く歩いたり、お室を對角線に横切つたり。

軽く手を振って歩けば、前の方を押し倒したり、つゝいたりする事はないはず。散歩ですから、床をドン／＼響かせたり膝を曲げたり、あまり緊張して、鉛の人形の様にならない様、お背中を伸ばして、のんびりと歩ませう。勇しい行進曲に合せて歩くのは、何とよい心地でせう。

之に拍手を加へ又は、臂を前横上に舉げることを加へるだけでも、非常な變化を感じます。靴の紐がほどけた方は、一寸列外に出て直して下さい。

ひらいた／＼(日本幼稚園協會發行 幼稚園唱歌選集所載)

「ヒライタ／＼何ノ花ガヒライタ、蓮華ノ花ガ開イタ、ヒライタと思ツタライツノマニカツ／＼ホンダ。」

赤、青、黒とり／＼の洋服につゝまれた坊ちゃん、嬢ちゃん、皆さんは綺麗な蓮華の葉の一枚々々。あの美しい蓮華の花の様に開いたり閉ちたりするのです。さあお手々をつなぎませう。

「開いた／＼何の花が開いた」
連手して圓を左に廻ります。

「蓮華の花が開いた、開いたと思つたら」
同様右に廻ります。

「何時の間にか／＼ぼんだ」
連手のまゝで圓心に入ります。

これには、もう少し複雑な動作がついて居りますが、よく歌はれる歌でありますから、歌に合はせて自由に、圓の左右廻り、内外へ出入りの歩き方の練習に致します。

ところ (日本幼稚園協會發行「遊戲の歌と曲」所載)

「ふるさとまどめて花いちもんめ」

「誰かさんとりたいたい花いちもんめ」

窓の外から賑やかな聲が聞えて参りますが、こゝでは、ピアノに合せて前進後退の遊びといたします。

それは花いちもんめと同じ様に、二組に分れ、各組連手して向き合ひ、兩組同時に三步前進、三步後退を二回繰返した後、各組一端の者が中央に出、片手をつかつてひきくらをするのです。

その時、横の線が、だら／＼鉛の様に崩れない様に。三步前進した時、四歩目の足のつま先で前足の後の床を一寸打ちます。皆が揃つて出来るまで、ひきくらはおあづけにして、何度も／＼繰り返させう。

さて次に

○駈ること。

幼児の日常生活に絶えず繰り返される、自然運動の一でありますから、之も歩きと同様、個人的動作より全體統一へと發展させ遊戲的に取扱ふことに致しました。一例として

汽車が走る(日本幼稚園協會發行「遊戲の歌と曲」所載)

銘々が汽車の二輛で十人乃至十五人を一本の長い汽車にいたします。指を開いて伸ばし、肘を曲げ、用意が整つたところで發車、先頭の機關車は右手を高く上げて合圖をすると共に煙をはいて動きます。

始はシュツ／＼シュツ／＼シュツ／＼と間をおいて一歩づゝ、ゆつくり動いて居りますが、伴奏が速くなるにつれ、車も速度を増して漸次、かけ足へと移ります。途中には橋(繩とびの繩

を二本並べる)があり、トンネル(二人で手をとつて高く上げた下をくぐる)が有ります。脱線して轉ばない様、氣を付けませう。前の車輛に追突しては大變です。速度を増した汽車も驛が近づくとつれて速力をおとします。驛に着いた時驛夫が「○○驛」と呼びます。かけ足が、主ですから、伴奏は、なるべく長く走れる様に弾くことに致しませう。

蝶々(日本幼稚園協會發行「幼稚園唱歌選集」所載)

全生、圓の内側を向いて腰を下し、兩手を顔の前になげて花の形を作ります。二、三人蝶々になつて、兩手を伸ばして横に舉げ、羽の様に、上下に軽く動かしながら、圓の外側をなるべく小股に靜かに、すり足で走り、自由に花にとまります。

蝶々さんに、とまられた花さんは立つて蝶々に代りませう。ピアノに合せて飛んで下さい。そして姿勢がよく真直ぐ地上に伸び、一番大きく開いたお花にとまつて下さい。

次にもう一つ

〇とがこと

絶え間なく歩き、絶え間なく駈けてゐる子供達は、又スキップといふものをよく致して居ります。あの輕やかなスキップの定義とても申すならば、右足を前に出して飛ぶと同時に、左膝を屈けて前に舉げる。この動作を一呼間にし、連續して行ふ。と言ふ様な面倒なことになりませう。がまあ實際そのまゝで、背を真直に、頭をおこし、手は腰にとつても、又は振つても、樂な氣持で、とぶだけとばせたいものです。

始めの間は、この様に旨く足を運ぶ事が出来ないで、一方の足

の前に出し、後の足を之にひきつけながら駈け出す様な事も御座いますが、横や前に、補助者をつけて、足のリズムを感得するまで何度も〳〵反復練習することにしたませう。歩く事を覺えた赤ちゃん、轉んでは立ち、二、三步進んでは轉び、お母様のお手に、攜つては又歩きして、見事にあんよの喜びをあらはす時のやうに、

補助者になつたお友達は、二人で手を組んで、時々早く、或時は、片足づゝゆつくり飛んでみて下さい。

スキップでも又、色々な遊戲が考へられます。

兵隊ごっこ 二拍子の曲をリズムカルに。一列に並んで御覽なさい。兩手を前に舉げてぐんと伸ばして、手綱をぎゅつと握りませう。さあ〳〵進軍のラッパが響き渡りました。僕たちは強い強い日本の兵隊さん。胸を張つて、忘れない様に手綱をとりませう。スキップで駈け出すのです。おしまひまで、この通りに並んで、前の方に突き當つたり、お馬に振り落されたりしない様、御要心〳〵。パカ〳〵〳〵走ります。

では今度は。お手を横に舉げて御覽なさい。何になりましたか？ えゝゝ、飛行機ですね、翼は先の方まで、しつかり伸ばしませう。

日本の飛行機。勇しい飛行機。前に一臺、後に二臺と三臺づゝ組んで隊を作り、銀翼を連ねて大空をかけるのです。壯觀なものではありませんか。

可愛いこまどり(日本幼稚園協會發行幼稚園唱歌選集所載)

横に舉げた翼を、そつと上下に振ると、雀になります。鳩にも

なります。こまざりにもなります。

始め八呼間、駒鳥さんは羽を擴げて羽搏きしながら、スキップで、好きな方向へ飛んでゆきます。可愛い駒鳥さん、高いお室を飛ぶのですから、羽をよく伸ばして皆さんと一緒にピアノに合はせて飛びませう。無闇に飛び出すと地上に落ちないとも限りません。

次四呼間、その場にしゃがんで、手を胸前で組合せ、頭を左右に四回曲げて振る。小さな駒鳥さん、木の枝にとまつたら、「ボン」「ボン」「ボン」と云ふ音に合せて澤山お頭を振つて下さい。見て御覽なさい。嬉しそうなお顔をしたお友達のお顔がよく見えますか。

次四呼間、両手を後に伸ばして向き合せ、横に振る。元氣よく羽ばたきを致しませう。隊形は自由に致しますが、時々、一列に並んで飛んでも面白いでせう。

スキップと、頭の運動と、手の動作に依る簡単なものですが、伴奏に於きましても、動作の變り目には、アクセントをつけ、又、スキップの速度も適當に加減したいと思ひます。

この様にして次第に、音楽と共に、お友達と共に遊戲をする愉快さも増して参りませう。今日は、皆さんの大好きなマ、ゴトを致します。

マ、ゴト（「幼稚園唱歌選集」所載）

「マ、ゴトしませう。仲よくしませう」

腰を下して坐り、左手を前に出し、右掌を横に向け、物を切る様にして左手の上を軽くたたく。

左手は、^{マナ}組板。眞すぐ伸びて居ります。庖丁も、よく切れる様です。體が曲つてゐては、お野菜も曲つてしまひますよ。

「お芋に大根」

右手で右傾前を指示し、次に左手で左傾前を指示す。

「御馳走出來た」

右掌をかへして傾前に出し、次に左掌をかへして傾前に出す。

（どちらの手を先にしても可）

本當に、美味しそう。高くあげて見せて下さいな。

「ボチ」も

両手を胸前で曲げると同時に飛び上る。

ボチは勢よく飛び上りました。嬉しそうですね。

「蝶々もお客様」

両手を横に上げて上下に振りながら、各自の廻りを一廻りする。蝶々さんもお仲間入り。楽しそうに羽を擴げて、飛んでゐます。

隊形は、自由に散つても圓形でも或は二人づゝ向ひ合つてもよろしいでせう。

チューリップ（「幼稚園唱歌選集」所載）

「咲いたくチューリップの花が」

両手を顔前に上げて、両掌を向き合せて花の形を作り、各自の廻りを一廻り、八歩する。どれもこれも綺麗なチューリップ。一廻りする間、凋ばまないで下さい。

「並んだく赤白黄色」

そのまゝ、しゃがんで立ち、二回繰返す。花壇のチューリップ

の様な可愛いお花が、お室にも咲きました。身體が地面に着くまで低くしやがみ、元氣よく眞直ぐ伸び上りませう。規則正しく正確に立つたりしやがんだりする事は足の運動であると共に全身に作用致します。

「どの花見ても」

同様、花の形を保つたまゝ、跼足で各自の廻りを一廻りする。

「綺麗だな」

内心を向いて足踏みと共に拍手する。

始めから終りまで、綺麗な花である事は、相當努力を要することとせう。

これは、一人一人が花であると共に、全體が大きな花でありましたが、今度は一列のチューリップ兵隊になつて見ます。

即ち四人一組で横隊に並びます。

始めの動作は同様、「チューリップの花が、」の時に一齊にしやがみ、「竝んだく」から、順々に一人づゝ立ち上ります。

或は四つの列を作り、前の様に、一列づゝ立ち上つても面白いでせう。

大體この様にして、歩くこと、跼ること、スキップすることより、簡単な動作のものへ導き、基礎的動作を通して、團體的行動への準備としたので御座います。

観

察

清水光子

幼稚園に來たばかりの子ども達にとつては何もかもが新しいこと、新しいものばかりできつとそれだけで日々一ぱいであらう、それだから觀察が出来ないといふわけはないし、だからこそその新しく受入れたものを整理したり、観る習慣へ導いたり、よりよくみるやうにしたりして助けて、ものをみる本當の態度を斯うした最初の機會に養ふべきだと思ふ。

幼稚園各室、庭、國旗掲揚場

入園式がすんで今日から幼稚園で遊ぶといふ日皆で揃つて幼稚園の中を見てまはる。附添から離れない子どもは附添と一し、よに、やうやく離れたやうな子どもは手を引いて、幼稚園のおへやを方々見てきませうと誘つて、話し乍ら歩く。お玄關では靴箱があるなら出し入れのし方をやつて見せて、誰さんはどこ、こゝね、といふやうに早く銘々の場所を覺えるやうにする。帽子掛けても同じやうに帽子を落さないやうに掛けませうといふ注意と一しよに場所を知らせる。それから年長組の室とか、何の組の室、先生の室、遊戲室、といふやうに見て歩く。その時その室の位置や特徴も話し乍ら見て歩くやうにする。たとへば私達の室から一ぱん遠いとか、何番目の窓とか、向ひ側とか、左か右かとか、窓がこゝだけは三つあるとか、戸に模様があるとかいふ程度に。そして遊戲室ではそのまゝ年長組の遊戲を見せて貰つたり、一しよに入れてもらつたりしてもよい。

お元氣がよければお庭へ誘ふ。出口では履き物の始末に氣を付ける。ブランコ滑臺などの遊具はすぐにも乗りたい子どももあるけどみんな一まはりしてからといふことにしておく。